

九州工大での30年の思い出

特別会員 出口 博之



今年の3月に「九州工業大学での30年を振り返って」という題目で最終講義をさせていただきました。講義ではあまりお話できなかった思い出について書いてみたいと思います。

着任した頃の思い出

本学着任前は、九州大学工学部応用理学教室力学第二講座の助手でした。同講座の助手から九州工大に異動された山田知司先生は、九大の研究室をよく訪問されました。1992年の某日、「九州工大の工学部で物理の助教授の公募があるので、応募してみてくださいか」と声をかけていただいたので、思い切って応募いたしました。なかなか選考の通知

がないので諦めていた頃、面接の通知が届いたので驚きました。確かその年の年末、面接を受けるために本学戸畑キャンパスに初めて来学しました。趣のある正門をくぐると森のような木立の中に校舎があるのがとても印象的であったのを今でも覚えています。年明けに幸運にも採用の内定をいただき、また1月末に結婚式を挙げたので、1993年は私にとって記念すべき年となりました。

3月に着任し、工学部一般教育等自然科学教室に配属され、4月より講義科目の物理学Iおよび物理学実験を担当しました。物理学実験は前期3クラス、後期2クラスの担当です。ので、今考えるとかなりヘビーな担当であったと思いますが、実験の指導は嫌いではありませんでした。ただ、物理学Iの授業が木曜日1時限開講、夜間主コースの物理学実験が火曜日6、7時限開講でしたので、福岡市からJRでの通勤が苦痛となり、7月には小倉南区に転居いたし

ました。妻は福岡市から北九州市に引っ越すのに難色を示していました。が、「住めば都」でその後30年間住み続けて満足しているようです。

山田知司先生には、着任後大変お世話になりました。残念なことに、ご退職後の2019年5月にお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りします。

明専会の思い出

本学出身でない教員は明専会では特別会員となりますが、正会員の方ほど強い関わりはありません。私の明専会との数少ない関わりを述べさせていただきます。着任して間もない頃、研究室の実験装置の立ち上げの予算獲得のため、科研費の申請をしたのですが不採択となり困っていたところ、明専会の80周年記念事業で研究支援の公募があると知りました。早速、科研費で申請した研究課題で申し込んだところ、運よく採択されました。その予算で発振器を2台購入して、線形磁化率と非線形磁化率を同時測定可能な交流磁化率測定装置を製作して実験ができたときは、非常にありがたく思いました。そのころ、明専会報に当時脚光を浴

びていた「高温超伝導体」についての解説記事をお願いされたので、この研究支援の恩返しのためにも執筆した覚えがあります。

また、総合システム工学科の就職担当教員をした縁で、明専会支援作業部会の委員を務めたことがあります。ご存じのように明専会は、本学とつながりの深い企業の本学OB・OGの方に業務内容や企業での経験を講演していただき、そのあと学生と交流会を行うイベントです。その企画立案、学生の参加募集、企業の方との打ち合わせおよび当日の司会進行を行うのが作業部会委員というわけです。私以外の部会の先生方はほとんど本学出身者で、企業とのつながりも強く経験豊富な方ばかりでした。場違いな部会に紛れ込んだと戸惑いましたが、京セラグループや日立製作所などの明専会を担がせていただきました。私は、基礎研究の物理学が専門ですので、企業との付き合いはなく、また企業勤務の経験もなかったのですが、明専会は私にとって良い社会勉強になりました。

研究室の学生との思い出

着任した1993年度から202



核磁気共鳴の実験（2007年）

2年度までに研究室に卒研究生、博士前期課程院生、博士後期課程院生として在籍した学生は108名となります。各年度研究室学生名簿や写真を眺めると、当時の研究室の様子が思い浮かびます。着任してから数年は、実験の立ち上げのために装置の組み立てや測定プログラムの作成を学生の方が率先してやって下さり、大いに助かりました。非線形磁化率および超伝導マグネットの測定プログラム、核磁気共鳴装置の測定方法、ロッキングアンプを用いた線形・非線形抵抗の精密測定法の開発など多くの測定手段は学生の方の手によって完成され、それを用いて研究成果を上



別府への研究室旅行（2016年）

げることができました。さすが「技術に堪能なる士君子」を養成する大学の学生だと納得したので覚えていきます。研究室恒例の行事である夏休み期間中の研究室旅行は楽しみの一つでした。学生が企画してくれるので、私はただ参加すればよいのです。阿蘇の本学施設の長陽山荘も良く利用させていただきました。別府、糸島、島原など九州の名所なども車でもまりました。その中で忘れられないのは熊本県の球磨川のラフティングです。学生からは、「ゴムボートで楽しい川下り」としか聞いていな

かったので、いざ始めるときにヘルメットやライフジャケットを装着してボートから落下した際の訓練を受ける段になって、「話が違う」と思ったのですが、すでにボートは離岸してしましました。スタッフの方から急流では、全員がしっかりと漕がないと転覆すると注意されましたが、うまく漕げません。案の定、激流でゴムボートはひっくり返り、全員ボートから投げ出されました。私だけ裏返ったゴムボートの中に閉じ込められた状態で流されたので、学生たちからは姿が見えず遭難したと思われてびっくりさせました。本来なら教員が学生の心配をしなければならぬのに、逆に学生に心配をかけて申し訳なかったことを覚えております。

他の研究室の行事としては、学会発表で一緒に出張することです。研究室では博士前期課程の間に、日本物理学会および日本物理学会九州支部例会での学会発表をそれぞれ1件は行うことにしていました。学生が発表を行い、討論してもらうことで研究の理解が深まり、研究意欲が高まるのを目の当たりにする喜びがその都度ありました。それ以上に発表が終わって学生と現地で打ち上げの飲み会で談笑し、また観光地巡りを楽しんだことが記憶に残っています。



球磨川のラフティング（2017年）

おわりに

お盆に研究室OB・OG有志が退職を祝う会を開催してくれました。教員にとってこれほど嬉しいことはありません。

最後に、本学教職員の皆様には大変お世話になりました。この場をお借りして感謝申し上げます。

（九州工業大学 名誉教授）
（工学研究院基礎科学研究系 元教授）